

研究トピックス

不耕起V溝直播栽培で コシヒカリの品質が向上

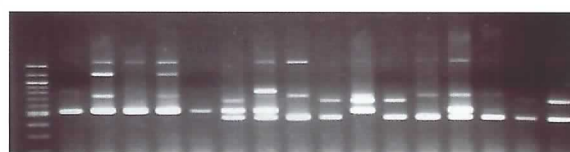
近年、夏の異常な高温によりコシヒカリの玄米が白く濁る品質低下が全国で問題となっています。農業総合試験場が開発した不耕起V溝直播で栽培すると、この品質低下を抑えられることが分かりました。品質向上のメカニズムを早急に解明して、愛知県産米のブランド化を図っていきます。（作物研究部）



左上：健全粒 左下：障害粒 右：不耕起V溝直播

コメの品種をDNA識別

品種名の適正表示やブランド保護のために品種識別が求められています。しかし、コメの品種を外観で識別するのは非常に困難です。そこで、DNAマーカーを使った識別を試みたところ、品種識別が可能になりました。この方法を使えば「あいちのかおりSBL」などの愛知のブランド品種を守ることもできます。（環境基盤研究部）



A B C D E F G H I J K L M N O P
DNAマーカーによる識別

A：あいちのかおりSBL、B：大地の風、C：あさひの夢
D：祭り晴、E：あかね空、F：コシヒカリ愛知SBL、G：峰ひびき
H：中部111号、I：コシヒカリ、J：ヒノヒカリ、K：ひとめぼれ
L：あきたこまち、M：キヌヒカリ、N：はえぬぎ、O：きらら397
P：ほしのゆめ（A～H：農業総合試験場が開発した品種・系統）

短茎「小ギク」の栽培法

最近では丈の短い小ギクが好まれています。そこで、今までより約10cm短い75cm丈で出荷できる栽培方法を研究しています。従来の栽培（栽植密度31株/m²、仕立て本数3本）より、栽植密度を高める（41株/m²）か、仕立て本数を増やす（4本）ことで、丈が短く高品質の小ギクを20～30%多く収穫できました。今後は75cm丈出荷に適した施肥の方法を明らかにしていきます。（山間農業研究所）



中山間地で栽培される色鮮やかな「小ギク」

花壇苗に適した 生分解性プラスチックポット

土壌中で分解する生分解性ポットが注目されています。花壇苗に利用しやすい耐久性や分解速度を備えたポットの素材や形状を明らかにしました。花壇用には、分解を早めるため澱粉を25%程度混合したものを使用し、すぐに根が伸びるように底の開口部を多く設けたものが適することが明らかになりました。（園芸研究部）



分解の進むポット



従来形（左）と改良形

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323（企画普及部）

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>